

幸 服 工 房

－理想を求めて前向きに自己の人生を切り拓く－

- 1 学 年 第7学年〔中期〕
- 2 主題名 夢を形に〔1－(4)〕
- 3 ねらい がん治療を続けながらも製品開発に取り組む小川さんの生き方を通して、目標をもち理想を求めて力強く前向きに自己の人生を切り拓こうとする実践意欲を育てる。
- 4 資料名 「幸服工房」
- 5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	<p>1 マットレスの中身について知る。</p> <p>○ これは何でしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維のかたまり ・ クッション ・ 分らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実物を提示し、資料への興味づけを行う。
展 開	<p>2 資料「幸服工房」を読んで話し合う。</p> <p>○ 小川さんはおじいさんが亡くなられた時、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○ 小川さんはがんであると知った時、どんな気持ちになったのでしょうか。</p> <p>◎ 小川さんはなぜ、がん治療を続けながら製品の開発に取り組めるのでしょうか。</p> <p>3 小川さん（ゲストティーチャー）の話聞く。</p> <p>○ 小川さんに質問してみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 悲しい。 ・ おじいさんはつらかっただろうな。 ・ おばあさんの時と同じように、何も役に立てない自分に腹がたつ。 ・ 神様はひどい。あとどのくらい生きていられるだろう。 ・ これから製品の開発をしなければならぬのに悔しい。 ・ 期待をして待っていてくれる人との約束が果たせなくなる。 ・ 祖父母と同じような体験をさせたくない。 ・ 強い信念がある。 ・ 人を幸せにしたい。 ・ 自分がした商品（仕事）を喜んでくれる人がいるから頑張れる。 ・ 人が喜んでくれることがうれしい。 ・ 小川さんの開発した商品にはどんなものがあるか。そのときには苦労はないか。 ・ 仕事をして楽しいことはどんなことか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料の主人公について確認する。 ○ 小川さんの気持ちを中心に、視点をあて考えさせる。 ○ 時間を十分にとって考えさせる。ワークシートに書かせることで、自分の考えを整理させる。 ○ 繰り返し発問をし、生徒の思いを深めさせる。 ○ 生徒の質問が出ない場合は教師が質問を準備しておく。
終 末	<p>4 小川さんの生き方について学んだことを「心のノート」P32に書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小川さんはすごい。パワーのある人だ。見習いたい。 ・ いやなことから逃げる自分はずかしいなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小川さんに向かって発表させる。 ○ 学習後、小川さんにお礼の手紙を書かせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

よりよく生きるため、理想をもち、それに向け努力することは大切なことである。しかし、理想の実現に当たっては、様々な壁がある。それを乗り越えていくことが大切であることに気付かせたい。また、自分自身の夢に向かって努力している人の生き方から理想を追い求めていく姿勢を学ばせたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア ゲストティーチャーの協力

ゲストティーチャーを招く場合には、事前の打ち合わせにより、授業のねらいや役割について説明し、理解を得ておくことが大切である（どの場面で、何を、どのくらい話してもらうかを明確に。）。

また、授業への参加が難しい場合もあるので、事前にインタビューしたものを映像化し、生徒へのメッセージとして流すのもよい。

イ 教具の準備

資料だけでは時代背景や専門的に使われている単語の意味も分かりにくいいため、場面絵や写真、具体物を活用したい。しかし、教具を提示した際、「楽しい」だけに終わらないように、「どこで」「どのように」活用するのかを整理し、ねらいにせまるための工夫が必要である。

(3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

マットレスの中身の実物を提示する等により、資料に対する興味・関心をもたせたい。

イ 価値にせまるための工夫

資料の主人公である小川さんにゲストティーチャーを依頼した場合には、苦労や製品開発における話を補説していただく中で、小川さんの力強い生き方を生徒に感じ取らせることもできる。

(呉市立阿賀中学校 古本由利)